

2022 年新春を迎え 新しいそば文化活動様式へ

NPO法人そばネットジャパン

代表理事 阿部 成男

◆会員の皆様 私たちそば打ち愛好者の年中行事の中で、年末最重要ともいえる“年越しそば打ち”を無事に済ませて、2022 年の新春をお健やかに迎えのとお慶び申し上げます。家族はもとより、多くの友人やお世話になった方へ心を込めて打ったそばをお届けすることは、自分自身が元気で活躍している証ともいえる意味もあり、当然、家族からも飽きられるほど強い意気込みを持つものです。

私も 12 月に入ると、お届け先の確認をして、必要なそば粉等の確保に入るなどの準備を進めるものです。ただ、最近はお届けしている方、特に先輩の高齢の方が亡くなったり養護施設に入るなど、年々打つ量も少なくなり昨年はひと頃の半分ほどになっていますが、なんとか健康でそば打ちができることに感謝をしながら打っています。

◆そばネットジャパン2年目の昨年は、交流事業として「ソバ栽培体験プログラム(2会場)」、「第3回そば打ちマスターズ大会」、地域活力向上事業として「戸隠そば文化交流」(2回)、技能検定事業として北海道3会場3回、群馬県、栃木県、千葉県 各1会場3回 埼玉県1会場3回 計9回開催となり、段位認定登録者数は12月末現在546人となりました。今年はいよいよそば学検定がスタートしますので、コロナ禍でも知恵と工夫を出し合い順調な進展となっております。

改めて会員の皆様に感謝を申し上げます。(事業の詳細についてはHPをご覧ください。)

◆さて、皆さんにとっての2021年はいかがでしたか？

その年の注目された出来事や話題の傾向を見るのには「流行語大賞」が参考になります。

昨年の大賞はご存知の「リアル二刀流/ショータイム」でした。

大リーグのシーズン中、ワイドショーをにぎわして(私もコロナ禍で外出が減ったこともあってTVを見る機会が増えた)耳にタコができるほどでした。

しかし、たゆまぬ努力、決して偉ぶらず他人に配慮する行動に加えてあのスマイルなど、野球好きでなくともオータニを知れば知るほど惚れ込むのは当然かもしれません。

特に、近年は些細なことで他人を傷つけあうようなギスギスした社会において、人々の心を潤したのでしょうか。

ところで、一昨年の流行語大賞のトップテンには「3密」、「アベノマスク」、「アマビエ」、「オンライン〇〇」、「GOTO キャンペーン」、「ソロキャンプ」と大賞の「3蜜」を筆頭に6語が入賞していましたが、昨年のトップテンにはコロナ禍に関わる語は「人流」と「黙食」だけです。

コロナ禍は僅か2年ほどで、終息どころか未だに世界を席卷しているものですが、多くの人の生活感からは薄らいでいるのでしょうか。

東京オリンピック後に急激に感染者数が激減し、世界から「不思議な国」と言われていますが、年末から上昇傾向になり、「人流」が増えれば感染者数も増加するのは世界の傾向を見れば明白であり、油断は禁物です。

そばネットジャパンとしても、全ての事業に感染防止策を講じながら、安全な事業執行をしていくことが必要です。

◆近年日本でも、大雨による土石流などの災害が頻発し、多くの死者や家屋損壊が発生しています。世界でもドイツなど北欧で大洪水の発生、先月にはアメリカでの史上最大規模と言われる巨大竜巻が発生し、多大な被害もたらしたことは記憶に新しいことです。世界中で今までにない自然災害が起こっている原因としては、「地球温暖化」による「気候変動」であると指摘されています。

「地球温暖化」の主な原因は人類の産業や経済活動などであり、化石燃料などの使用が代表的とされていることはご承知のとおりです。「節電」、「省エネ」など私たちの生活にも身近な問題として定着してきて、自動車もガソリン使用を抑える、さらに使用しない「ハイブリッド車」や「EV」などが開発されてきましたし、「エコ電化」として省電力の電化製品が溢れています。節電や節水などは、地球環境のためというより日々の暮らしの中で当然のことですが、エコ電化製品の普及はむしろ消費電力の増加につながり、地球環境悪化に追い打ちをかけているとの報告をみたことがあります。

本当にそうかと思って私も調べてみましたが、一世帯当たりの電力消費量(一か月あたり)は1970年に118.8kwhであった消費量は2010年度に302.9kwhの約3倍になっています。(家電製品の普及に伴い一世帯あたり電力消費量は増加傾向にあったが、東日本大震災以降、1か月あたりの電力消費量は減少している。日本原子力財団のHPより)

正直、我が家もエアコン、TVは各室、冷蔵庫も2台、照明はLEDだからと余計に明るくしています。

快適性、利便性を失わないために新しい技術がどんどん開発されますが、その技術が逆に地球環境を悪化させてしまうことも事実です。

そばネットジャパンはSDGsを事業に取り入れることを検討しています。

「SDGsでは気候変動は止まらない。」との科学者の意見も多いことも承知していますが、いま世界で、日本で起こっている課題を理解して私たちにできることを真剣に考え、実行していくことが大切なのではないでしょうか。

貧困、飢餓、ジェンダー、水・衛生、エネルギーなど17の目標は全て人類が解決しなければならない喫緊の課題であることは間違いありません。

人類は利便性、快適性を追求しながら発展してきましたが、それを制約されること、失うことを避けるための行動をしてきた結果が現在です。

◆人だけを攻撃する新型コロナウイルス出現によって、世界中の社会、経済は混乱に陥りました。

日本では3密(密集、密閉、密接)を避けることを余儀なくされましたが、このうち「集まる」、「会話する」に加えて「移動する」ことは円滑な人間社会を維持する最も大切な要素だそうです。会話するは今やオンラインでの会議も可能ですが、これも直接会って会話することには及びません。

しかしながら、感染対策の最も効果的である3密回避を維持しながら社会活動をする「新しい生活様式」(With コロナ)が提唱されており、信頼できるワクチン+治療薬ができるまで続けることとなります。

「新しい生活様式」とは、避けられない制約を否定するのではなく肯定的にとらえ、意識を転換して工夫や代替的行動で新たな楽しみを見つけることではないかと思えます。

コロナ禍は「父親が在宅勤務になって子どもに接する時間が増えて家庭が明るくなった。」、「本が売れるようになった。」、そして多いのが「手洗い、消毒等日常的に清潔を維持することで、風邪をひかなくなった。」とはよく言われています。私も毎年一回程度はのどが痛い、熱が出たなどの症状があるのが、ここ2年そのようなことは一度もなく、コロナ対策のお陰であることは明白です。

◆前置きが長くなりましたが、そばネットジャパンの事業とSDGsに戻ります。

そばネットジャパンでは、既に食材廃棄を削減するための「そばロスゼロ」を実践しておりますが、もう少し範囲を広げる「新しいそば文化活動様式」があってもよいのではということです。

例えば、先月、SDGsの導入について会員からの提案をお願いした提案書の記載例で

「事業実施に当たっての参加者、スタッフ等で市販の弁当(プラスチック容器)の配布を廃止し、

参加者は弁当持参とする。」としてあります。

これは、市販の弁当容器は廃棄物として処理されるもので、SDGs目標 11「持続可能な都市、ターゲット 11-6 2030 年までに、大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。」に該当するものです。

さて、市販の弁当を買って食べることは環境上の悪影響になるという「制約」と捉えられ、自身にとって「不便」を強要されます。(個人出費の増加は別にして)

この制約を受け入れる場合の選択肢として、「①レストランで食べる」、「②コンビニで買ってくる」、「③弁当を持参する」、「④昼食を抜く」、「⑤事業に参加しない」などがあげられます。④⑤は別として、①は自身の廃棄する容器はありませんので、可能な選択肢です。②も使い捨て容器を使用していない弁当(再利用)なら選択肢にはなりますが、まだそのような店は少ないです。③はどうでしょう。朝早く出かけるイベントではつらいものがありますが、自分や家族と工夫して作ることができたら楽しいではありませんか。今やお弁当のレシピはネットで星の数ほど出ています。さらに、そばネットジャパンのそばづくりリストとしてはお昼に食べられるそば料理を考えるだけでもうれしくなりますし、定着すれば「そば弁当コンテスト」も開催できます。このように「制約」をポジティブに受け入れる発想があれば、アイデアは無限に広がるはずで

す。

技能検定会などのそば打ちイベント、交流会、地域のそば祭りなど、私たちのそば打ち活動そのものがアイデアの詰まった玉手箱になります。

また、先月末に「第 5 回手打ちそば伝道師技能検定埼玉大会」開催要項を発信しましたが、技能検定部では受検申込書に今まであった「男・女」を削除しました。「老若男女誰でもできる手打ちそば」であり、会場で男女別に分ける必然性もないもので、遅きに失したと言われるかもしれませんが、このような普段何気なく使っていて一部の人への心配りが欠けることはまだまだたくさんあると思います。

我が国の総人口は 2015 年 1 億 2,711 万人で、2030 年には 1 億 1,662 万人、2060 年には 8,674 万人(2010 年人口の 32.3%減)にまで減少すると見込まれております。世界人口の予測は 2021 年 78 億 7500 万人、2030 年に 85 億、2050 年には 97 億、2100 年には 109 億人に達すると予測されており、気候変動の影響による食糧確保の面だけとっても危機的状況になるのは間違いなく、2050 年は今年生まれた子供がまだ 30 歳であり他人事では済まされないものです。

◆「プロボノ」を聞いたことがありますか？ 仕事で身につけたスキルや経験を生かし、NPO などを無償で支援する社会貢献活動を指し、最近注目されている活動です。

幸い、そばネットジャパンには現在、或いは過去に広い分野の職業で活躍している(いた)有能な人材が豊富であります。

例えば、昨年 4 月システム推進委員会を設置し、IT を駆使した会員との迅速な情報交流等を検討し 10 月にHP を刷新しましたが、中心となったのは民間でシステム関係の職で活躍した会員です。

そばネットジャパン会員は、デジタルはもとより、商工業、農業、国、地方公共団体の職員、自衛隊員、警察官、消防隊員、医師、教師、自営業など多種・多様な職業の方で構成されております。

そばネットジャパンは類まれなる大切なそば食文化の継承・発展のための団体です。

多様なスキルを持った会員が知恵と工夫を出し合い、数々の制約を肯定的に受け止め、楽しい交流を重ねながら進んでいきましょう。

令和 4 年 元旦